

令和3年度第1回

函館市廃棄物減量等推進審議会会議録

開催日時	令和3年8月24日（火） 15時00分～16時00分
開催場所	函館市環境部4階大会議室
議案	1 会長、副会長の選出【公開】 2 第3次函館市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況等について【公開】 3 その他【公開】
出席委員	澤村秀治委員, 青山森一委員, 一戸裕之委員, 柿崎陽子委員, 川上啓委員, 川端和雄委員, 立浪伸一委員, 立身零委員, 長南武次委員, 中村善幸委員, 花田稔委員, 松崎静江委員, 渡部鯉子委員 <p style="text-align: right;">(計13名)</p>
欠席委員	小貫恭也委員, 澤田光成委員 <p style="text-align: right;">(計2名)</p>

<p>事務局 出席者 職・氏名</p>	<p>池田幸穂環境部長 佐藤賢一環境部次長 小園敏弘環境推進課長 西谷光一施設整備担当課長 小林令環境推進課主査 浜口哲一環境推進課主査 高島学環境推進課主査 橋本健二環境推進課主査 江刺家大輝環境推進課主任主事 野口智子環境推進課主事</p>
<p>他 出席者</p>	<p>北海道新聞社，函館新聞社</p>
<p>浜口主査</p>	<p>それでは、定刻前ではございますが、出席の委員の皆様がお揃いになられましたので、ただいまから、令和3年度第1回函館市廃棄物減量等推進審議会を開催いたします。</p> <p>私は、本日の進行役を務めます函館市環境部環境推進課の浜口と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>はじめに、本日の審議会は、委員15名中、13名の出席がございますので、函館市廃棄物減量等推進審議会条例第6条第3項の規定により、審議会として成立しておりますことをご報告申し上げます。</p> <p>なお、本審議会の議事録につきましては、後日市のホームページで公開いたしますので、ご了承願います。</p> <p>続きまして本日は本審議会第15期の委員改選後初めての審議会でございますので、事務局から各委員の皆様をご紹介しますさせていただきます。</p> <p>(各委員紹介)</p> <p>以上13名のほかに、本日所用のため欠席されておりますが、小貫委員、澤田委員にも委嘱しているところでございます。</p> <p>続きまして、事務局の出席者を紹介させていただきます。</p> <p>(事務局紹介)</p> <p>議事に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>まず、先日郵送させていただいた資料ですが、審議会次第、審議会配付資料と審議会条例となっております。次に、本日机上配付の資料ですが、令和3年度清掃事業概要を配付しておりますが、不足している資料はございませんでしょう</p>

	<p>か。</p> <p>それでは、議事に入りたいと思いますが、議題（1）は会長、副会長の選任についてでございますが、事務局から説明を申し上げます。</p>
小園課長	<p>本日は第15期の審議会委員改選後初めての審議会となりますので、会長が選出されるまでの間、私の方で議事を進めさせていただきたいと思います。それは議題の（1）会長副会長の選任についてですけれども、会長、副会長につきましては、審議会条例第5条により、委員の互選により、定めることとなっておりますが、選出方法はいかがいたしましょうか。</p>
長南委員	<p>事務局からの案でお願いいたします。</p>
小園課長	<p>はい。ただいま事務局案ということで、ご発言がございましたけれども、よろしいでしょうか。</p>
	<p>（異議なし）</p>
小園課長	<p>ありがとうございます。それでは事務局の案をお諮りいたします。会長には、前期第14期の審議会でも会長を務めていただきました。社会基盤工学がご専門の澤村委員を、また副会長につきましても、本日欠席されておりますけれども、環境問題に高い見識をお持ちであり、前期副会長を務められた小貫委員に、それぞれ引き続きお願いしたいというふうに考えております。よろしければ、皆様の拍手をもってご承認いただきたいと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>（拍手）</p> <p>ありがとうございます。ただいまの拍手をもって、ご承認いただきましたので、会長に澤村委員、副会長には小貫委員が選出されました。</p>
浜口主査	<p>それでは、澤村委員にはお手数ですが、正面の会長席にご移動いただき、議事進行をお願いいたします。</p>
澤村会長	<p>ただいま会長に選出していただきました澤村でございます。前期審議会から引き続きになりますが、どうぞよろしくお願いいたします。本日の審議会におきましては、皆様から多くのご意見をいただき、有意義な会議となりますよう議事を進めてまいりたいと考えています。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは早速議事に入りたいと思います。議題（2）、第3次函館市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況等について事務局から説明をお願いいたします。</p>
小園課長	<p>あらためまして環境部環境推進課長の小園でございます。</p> <p>本日は、「第3次函館市一般廃棄物処理基本計画」の進捗状況やごみ減量化に向けた新たな取り組みなどについてご報告いたします。</p> <p>（「第3次函館市一般廃棄物処理基本計画進捗状況等について」説明）</p>
澤村会長	<p>はいありがとうございます。資料もよくまとまっており、分かりやすかったと思います。それでは委員の皆様からの活発なご討議をお願いしたいと思います。</p>

	<p>す。今の説明に対しまして、ご意見ご質問などございましたら、よろしくお願ひいたします。</p>
松崎委員	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は元年度と比較して、より多くのプラスチックごみが出されたと聞いております。事業者の方は見た目が良くなるようプラスチックの容器を使って販売していますが、以前にもお聞きしたことがございますが、事業者に対して行政から指導することは無いのでしょうか。</p> <p>ご覧になった方もいらっしゃるかもしれませんが、3週間ほど前に民放でプラスチックに関する番組の放映がありました。そこで、お肉を容器に入れずに、そのお肉だけを梱包したものを自動販売機で販売しているということが紹介されていまして。そうすることで、プラスチック容器を使うよりも賞味期限をより長く設定できるということでした。</p> <p>出たプラスチックをどう処理するかも大事なことです。そもそもプラスチックを使わないでみなさんのお手元に商品を届けるような、そういう取り組みはお考えではないのでしょうか。</p>
澤村会長	<p>はい、これについて事務局の方からコメントがあればお願いします。</p>
小園課長	<p>事業者側がプラスチックをなるべく使わないことで、排出量を減らすというお話かと思いますが、市では昨年7月にレジ袋が有料になったということもありまして、レジ袋削減に向けたキャンペーンを行ったほか、プラスチックごみ削減のためのパンフレットを作って周知を行っております。</p> <p>また先日8月14日に、エコ・チャレンジというイベントを蔦屋書店さんで開催したのですが、その中で例えば、プラスチックを使わない髭剃りですとか、植物の管を使ったストローなどのプラスチックを使わない製品について、各社で工夫をしている新しい製品を出展してもらい、紹介させていただきました。</p> <p>また、先日新聞報道にもありましたが、プラスチックの12品目についてプラスチック削減のための対策を企業に義務付けるといったことについて、国の方でも来年4月の法施行に向けて動いているということでもありますので、市としても今以上にプラスチックの廃棄量を減らせるよう周知啓発に努めて参りたいと考えております。</p>
澤村会長	<p>よろしいでしょうか。皆様から今の件に関連して何かコメントなどございますか。</p> <p>やはり気になるのはコンビニとかお弁当屋さんのお弁当だと思います。外食しない代わりにそういうものを買って食べることもあるのですが、やはり食べ終わった後に大量にプラスチックごみが出て、かなり後ろめたい感じがします。今の松崎委員のお話も、一般市民の側の取組の前に事業者の側でどういう取り組みができるのか、やはり事業者のインセンティブがなければなかなか進</p>

	<p>まないという部分も含めて、何か包括的な対応を進めていく必要があるだろうと思います。</p> <p>その他、ご意見等ございますでしょうか。</p>
川端委員	<p>プラスチックの削減について、以前にも行政や業者に要望したと思いますが、一つは昔のデポジットです。例えば私達が子供の頃、飲み終わったラムネのびんを買ったお店に持っていくと1円くれるというような制度ですが、これをもっと行政から事業者に働きかけたかどうかという話は、今は消えてしまいました。昔からありました。</p> <p>この会議で出ているお茶も紙製容器で環境に配慮しているということで、初めて見ましたけど、いいアイデアだなと思います。</p> <p>もう一つは、こういったお茶などの容器の強度を高めて、1回で捨てずに2回、3回と使えるようにできたらと思っております。1回1回捨てるのは本当に無駄なことだし、結構なごみの量になるのではないかと思います。私としては先ほどのデポジット制度を実施して、カップやびんの強度を強くして、それらを2回も3回も使えるように事業者が工夫したものが市場で使われるようにしないといけないのではないかと考えています。</p> <p>大手のファミリーレストランとか大きい事業者はストローも紙のストローを使用したりと工夫していますね。なかなか地方から始めるのは難しいと思いますが、地方都市としてはデポジット制度を政府から指針を出してもらって行う、あるいはびんの規格を決めて、強度を強くして2回3回使えるようにする。そういったことをやるのも一つの策ではないかと私は思っています。以上です。</p>
澤村会長	<p>はい。ありがとうございます。このプラスチックの減量化についてコメントをいただきましたけれども、事務局から何か関連してございますか。</p>
小園課長	<p>デポジットの検討について貴重なご意見ありがとうございます。回収した容器の洗浄等コストの部分や、衛生的な面などなかなか難しい面もあるのではないかと考えておりますが、ペットボトルについての、現在の方向性としては、ペットボトルから選別回収して得た材料をまたペットボトルに再利用することで持続可能なリサイクルができる「ボトル to ボトル」という流れもありますほか、できる限りマイボトルを使ってもらおうといった周知啓発も図って参りたいと思っております。</p>
川端委員	<p>デポジットは私たちが子供の頃は良い仕組みだと思っていました。</p> <p>先日テレビで見ましたが、普段ペットボトルのラベルを剥がして資源にしていますが、今は事業者も考えてより剥がしやすいつくりになってるんですね。</p> <p>リサイクルに出すために洗うあるいはラベルをはがす、色々手はかかりますがある程度は消費者の責任だと思います。そういったことを考えると、環境部</p>

	<p>ニュースやポスターは大変役に立っていると思います。</p> <p>なるべくリサイクルをしなければいけないのですが、町会でもお年寄りの方は結局分別するのが面倒だからみんな燃やせるごみに入れてしまいます。やはり、例えばラベルをはがすとかそういう手間が省けると、リサイクルが進んでいくのではないかと思いますので、行政の方もそういうことを消費者に取り組んでもらいやすいように考えていただきたいと思います。以上です。</p>
澤村会長	<p>ありがとうございました。ではその他何かございますでしょうか。</p> <p>今日先ほどのご説明の中で、やはり特徴的で気になったのが函館の場合はリサイクルの数字が伸びていないというところですね。そのあたりの何か要因ですか、今後何か考えてることがございましたら、よろしければ事務局からお願ひしたいと思います。</p>
小園課長	<p>リサイクル率につきまして、令和2年度で見ますとごみの全排出量が約10万7,000トンあるのですが、このうち再資源化されたものが約1万5,000トン程度あります。この割合がリサイクル率となりますが、再資源化されたものの内訳を見ますと、最も大きいのが集団資源回収の約6,500トンです。続いて、缶・びん・ペットボトルの約4,600トン。プラスチック容器包装の約2,600トン。あとは最終処分場から資源のピックアップ回収をした800トン、その他燃やせるごみを燃やした後の焼却灰を太平洋セメントさんに持って行って再資源化をしたものが700トンとなっております。集団資源回収の占める割合が約43%ということで非常に大きいウエイトとなっておりますが、この集団資源回収量が先ほどご説明したように減少傾向になっているということもありまして、なかなかリサイクル率が伸びていかないと考えております。以上です。</p>
澤村会長	<p>集団資源回収がかなりの比率を占めているということなんですね。地域とか町内会の力が弱まっているということも関係しているのでしょうか。</p> <p>あと皆さん何かございますか。</p>
立浪委員	<p>私は最近函館に来たばかりでして、基本的なことをお伺いしたいと思うのですが、原単位について、全国平均から見ても、中核市平均から見ても、200グラム程度多いということについて、何か要因等がわかっていたら教えていただけたらと思います。</p>
澤村会長	<p>函館市のごみ処理の原単位が大きい理由ということですね。では事務局から何かありますか。</p>
小園課長	<p>ごみの排出抑制対策としては有料化がありますが、函館市では平成14年度に有料化を実施して、家庭系の原単位が大幅に減少したということがあります。その後、生ごみの堆肥化などの減量化・資源化の方策を実施してきましたが、なかなかさらなる引き下げには至っていないというのが現状です。</p> <p>原単位は年間のごみの排出量を人口と日数で割り返して算出をしております</p>

	<p>が、本市の場合は人口の減少ほど世帯数が減っていないということがあります。1世帯あたりの人数が全国平均と比べましても少ないという状況がありまして、一般的に同じ人口であれば、世帯数が多い方がごみの排出量が多くなっているという傾向がありますことから人口に対して世帯数が多いという本市の特徴も原単位が高い理由の一つかと思えます。</p> <p>また、本市は全国有数の観光地になっておりまして、観光入込客の飲食等に伴うごみの排出も要因であろうと思えます。</p> <p>そのほか、道内の10都市のごみの排出を比較してみたところ、沿岸都市の方がより事業系の原単位が高くなる傾向がみられまして、理由は不明ですが立地も含めて様々な要因が影響しているのではないかと思います。</p>
澤村会長	<p>ありがとうございます。よろしいでしょうか。</p> <p>その他ございますか。</p>
松崎委員	<p>お聞きしたいのですが資料の6ページに、『本市のごみ排出量等は平成30年度から家庭系ごみおよび事業系ごみともに増加に転じていましたが、令和2年度は事業系ごみの大幅な減少によりごみ総排出量および原単位は減少しています。これは新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みなどの影響によるものが主な要因と考えられます。』と記載されておりますが、これに関しまして、どのような取り組みをされたのかお聞きしたいと思います。</p>
澤村会長	<p>はい。事務局から、コメントなどがありますでしょうか。</p>
小園課長	<p>これは環境部の取り組みということではなく、新型コロナウイルス感染症拡大防止の全国的な取り組みとして宿泊施設や飲食店が休業したことによって、ごみ総排出量や原単位が減少したということで理解をしていただければと思います。</p>
澤村会長	<p>ほかにごございますか。よろしいですか。</p> <p>それでは議題（3）その他ですが何かありますでしょうか。</p>
浜口主査	<p>事務局からの連絡事項になりますが、本日の審議会の議事録を作成し、後日内容の確認をお願いする予定ですので、ご協力をお願いします。事務局からは以上です。</p>
澤村会長	<p>はい。それでは予定していた議題は以上でございます。</p> <p>その他全体通してで結構です。皆様から何かご意見などございましたら受けたいと思いますがいかがでしょうか。特にこの場ではよろしいですか。</p> <p>それではこれもちまして、令和3年度第1回函館市廃棄物減量等推進審議会を終了したいと思います。皆様からたくさんご意見をいただきまして、審議することができました。本日はどうもありがとうございました。</p>
浜口主査	<p>以上で本日の審議会を閉会いたします。委員の皆様長時間にわたりありがとうございました。</p>